

## チゴハヤブサ (ハヤブサ科) 全長 30~36センチ

ハヤブサより小さくて、およそハトぐらい。

日本では北海道と東北北部で少数が繁殖するのみで、秋田県は南限となります。大仙市内では、毎年何か所かで目撃や繁殖情報が寄せられています。

6月26日、北楯岡の神社近くの屋敷林で、子育てに励む一番(ひとつがい)が見つかりました。

「キキ、キッ、キーツ」、甲高い鳴き声に気付き上空を見上げると、素早いスピードでカラスを追いかけてまわっていました。



目がパッチリ、まるでぬいぐるみです。

チゴハヤブサは自分で巣を作ることはなく、カラスの古巣を勝手に使い子育てしています。カラスは、空いた巣を使われてもなんの影響もないでしょうが、自分の縄張りを奪われてしまったのが気に障るのでしょうか。

しかしチゴハヤブサは圧倒的なスピードと、鋭く曲がったクチバシと爪を武器に、近づく敵をたちまちに威嚇し追い払います。



精悍な顔つきは、いかにもスピード感があります。



まだ眠いのでしょうか。

イヌワシやハヤブサ、オオタカ、フクロウなど猛禽類の雛はみな真っ白です。チゴハヤブサの雛もモフモフの可愛らしさで、この貴重な瞬間をビデオに収めたいと、毎日通うことになりました。

杉の上部にある巣の周囲は枝に覆われ、地上から見える位置は1か所しかありません。巣が見える狭い視界から、その時を待ち続けます。

7月13日、初めて雛が現れました。まだ雛は小さく、身体の一部しか見えず何羽いるのかも分かりません。7月24日、ついに4羽の雛を撮影することが出来ました。親が運ぶ餌は、セミやオニヤンマなどでしたが、雛の成長に合わせて運んでくる餌の種類も変わってきます。

更に10日間経過すると、だんだんと白い毛が抜け落ち、茶褐色の羽が見えてきました。この頃、餌はメジロやツバメなどの小形の鳥に変わります。



親の元へ4羽の雛が集まってきた。



白い毛が抜け落ち、大分逞しく見えてきました。

狩をするのは主にオス親の役割で、巣の近くで見張りをするメス親に運んできます。餌を受け取ったメスは、羽などの消化しにくい部分を取り除き、食べやすいようにしてから雛に運びます。親は肉を細かく引き裂きながら、一羽一羽に平等に与えていました。

一段と逞しくなった4羽の雛。今にも飛び立つような勢いで両翼をばたつかせます。



巣立った幼鳥。親からもらった餌を喰ります。



後姿は親と見間違ふほどですが、背中中の羽一枚一枚が白く縁取りされているので、幼鳥と分かります。

8月5日、1羽の雛が近くの枝先に移動していました。最初の巣立ちです。

翌日には、他の3羽も次々と巣を離れ、ついに全員が巣立ちを終えました。あの真っ白だったころの可愛い面影はもうありません。しばらくは餌をもらいながらも、やがては親の後を追いかけて狩の仕方を学び、独り立ちを迎えることでしょう。